



実用新案登録願(1)

(¥5,000)

昭和51年6月8日

特許庁長官 片山石郎 殿

1 考案の名称

ハ プラ シ  
齒 刷 子

2 考 案 者

実用新案登録出願人と同じ

3 実用新案登録出願人

ナカノ クサギノミヤ  
東京都中野区鷺宮5-17-11

タケ イ テル オ  
武 居 照 夫

4 添附書類の目録

|             |     |
|-------------|-----|
| (1) 明 細 書   | 1 通 |
| (2) 図 面     | 1 通 |
| (3) 願 書 副 本 | 1 通 |



51 073260

52-165764

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 歯 刷 子

### 2 実用新案登録請求の範囲

1. 中空の握り柄部分と、この中空部分内に装填される歯磨チューブと、このチューブから押し出される歯磨の通路を内部に有しブラシ取付部に出口を開口する頭部と、この頭部に設けられたブラシ部分と前記握り柄部分内を軸線方向に移動可能に取付けられた歯磨押し部材とを具えることを特徴とする歯刷子。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は歯刷子に関するもので、その目的とするところは握り柄部にチューブ入り歯磨を組込んだ新規な歯刷子を提供しようとするにある。

本考案による歯刷子を図示の好適実施態様につき説明するに、図示の例では、歯刷子をプラスチックその他適当な材料で造つた握り柄部分1と、この柄部分1の一端にねじ込みまたは嵌着によつて一体に連結される先端または頭部2と、この頭部2のブラシ取付面3にありつき嵌合その他によ

つて取付けられるブラシ部分 4 とで分解可能に構成している。

図面に示すように、掘り納部分 1 を中空として歯磨チューブ 5 を装入するチューブ受室 6 を設け、柄部分 1 の壁に長さ方向に延びる操作片摺動溝 7 を形成し、押出し操作片 8 と球形のローラまたは押出し用玉 9 を回転可能に支承する半球形の玉受け 10 とを有する歯磨押出し部材 11 をその指合頸部 12 において摺動溝 7 に摺動可能に嵌合させ、指で操作片 8 を摺動溝 7 の一端から他端に向けて押し動かすことによつて押出し用玉 9 をチューブ受室 6 内に長さ方向に移動し、受室 6 内に装入されている歯磨チューブ 5 をその一端から順次押し潰してチューブ 5 内の歯磨を押し出し得るようにする。

頸部 2 にはチューブ 5 から押し出された歯磨を受ける導出通路 13 を貫通して設け、この通路 13 の入口 14 をチューブ 5 の口 15 と蝶合または図示のようにテーパ部により嵌合して連結する構造とし、これによりチューブ 5 から押し出される歯磨が外部に洩れることなく通路 13 内に確実に押入される

よう構成する。通路13の出口16はブラシ取付面3に開口させ、図示のようにブラシ取付面3の一端に開口させるのがよい。

前述したように、図示の例では、ブラシ部分4と駆動2のブラシ取付面3にそれぞれに設けた条溝18と突条19との組合によつて使用時における駆動2に対するブラシ部分の上下左右への相対的動きを阻止するとともに掛止突起20と掛止窪み21との組合によつて前後方向への相対的動きを阻止し、これにより使用時にブラシ部分4が駆動2から脱落するのを防止し得るよう取付ける。かようにブラシ部分4を着脱可能とすることによつてブラシ毛の損耗に際してブラシ部分4を新しい部品と交換することが可能である。しかし、ブラシ部分4を駆動2に一体に設けても良い。

本考案の歯刷子のチューブ受室6内に装填して用いられるチューブ5の末端22は、図示するように押出用玉9の形状に合つた形状にするのが好ましい。かように構成することによつて、押し出し初期の段階で、玉9がチューブ5の端部22に引

つかかりを生ずることなく、円滑に押し出し操作を行なわせることができる。また、第6図に示すようにチューブ5に舌片23を取付け、この舌片を中空掘り柄部分1のチューブ挿入口24に形成した溝25（第5図(c)参照）に合わせて差し込むことによつて所定の正しい掛合位置での挿入を可能にするとともに、柄部分1と頭部2との結合時に、通路13の入口14がチューブ5の口15を必要以上に押すのを防止することができる。

上述の構成になる歯刷牙によれば、片手で柄部分1を把持して指で操作片8を押し動かすことによつて必要量の歯磨をブラシ部分4に抽出することかでき、使用時の取扱いが容易である。また、短期間の旅行等の使用に際し従来のようにチューブ入り歯磨を携帯に所持する必要もなくなる。また、図示の例のように、押し出し部材を玉受け10内に回転可能に支承した押し出し用玉9で構成することによつて、チューブ5からの歯磨の抽出を極めて容易に行なうことができる。

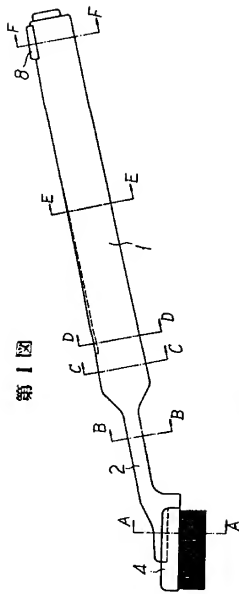
#### 4 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案による歯刷牙の正面図、第 2 図は同じくその平面図、第 3 図は第 1 図に示す歯刷牙の分解図、第 4 図は第 1 図に示す歯刷牙の縮断面図、第 5 図は第 1 図の A - A , B - B , C - C , E - E および F - F 断面図、第 6 図は歯磨チューブの側面図、第 7 および 8 図は押し出し部材の拡大断面図および側面図である。

1 … 握り柄部分、2 … 頭部、3 … ブラシ取付面、4 … ブラシ部分、5 … 歯磨チューブ、6 … チューブ受室、7 … 操作片摺動溝、8 … 押出し操作片、9 … 押出し用玉、10 … 玉受け、11 … 歯磨押出し部材、12 … 嵌合頸部、13 … 導出通路、14 … 入口、15 … チューブ口、16 … 出口、17 … 条溝、18 … 突条、20 … 掛止突起、22 … 掛止窪み、23 … 舌片、24 … チューブ挿入口、25 … 溝。

実用新案登録  
出 願 人

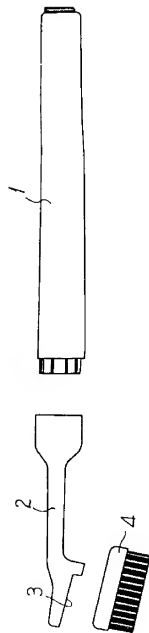
武 居 照 夫



第 1 図

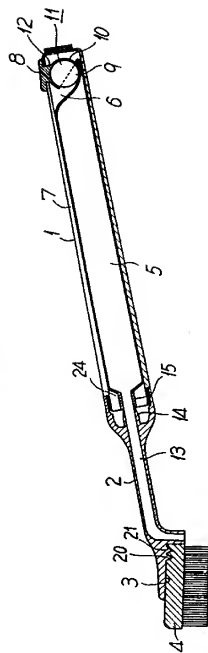


第 2 図



第 3 図

第4図

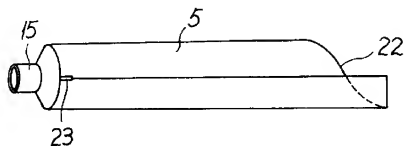


第5図

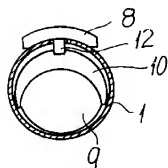




第 6 図



第 7 図



第 8 図

